

東日本大震災救援ニュース

No.33 2011年4月21日



県連統一医療・介護支援隊、本日出発

本日21日、尼崎医療生協グループでは第5次となる県連統一医療介護支援隊の出発式を12時半よりあおぞら会館入口にて開催しました。日程は4月21日(木)から27日(水)までの7日間。

行き先は、宮城県塩竈市にある坂総合病院・長町病院。第5次支援に参加するメンバーは、西村栄子所長(訪看菜の花・看護師)、石本典子看護主任(潮江診療所)、多田安希子事務副主任(病院医療福祉相談室)、平山明美介護福祉士(けいはん医療生協、新大阪駅で合流)の4人。

出発に際し、西村所長は「在宅総合センターふる里では何人も現地支援に行っており経験を聞いている。できることをしっかりやってきたい」と決意を表明。救援から復興に向けた動きの中で、民医連・医療生協らしい支援のあり方が模索されています。



続・みやぎ県南医療生協での支援活動

<組合員活動部・山口課長の報告から抜粋>

○組合員さんの安否確認

20日は午前中に、避難所用の物資仕分けをしました。出された要求は多岐にわたっており、ここで準備できるものは一部です。その一部の物資を、個人ごとに仕分けをしたわけで、午後から、太田さん(県南医療生協組織部)と西垣さん(尼崎医療生協からの支援メンバー)で届けに行ってもらいました。今朝までに、「調査票」のすべての入力はできなかつたため、午後からその続きを富永さん(医学対事務)が入力し、完了しました。これに基づき、午後、塩見さん(尼崎医療生協病院准看護師)と高橋さん(尼崎医療生協病院に実習経験のある山形市在住の医学生)で、明日届ける物資を個人ごとにまとめました。



20日午後3時から5時まで、富永さんと山口は、診療所で、組合員さんへの電話かけを行いました。

息子さんが出てこられ、「父は行方不明です」というところがあり、返す言葉に詰まりました。「家が半壊で、解体した」という家あり、「解体するかどうかで今悩んでいる」という家あり、「土蔵がこわれた」という家あり、「それなりに被害がありました」という家あり、共通して、わざわざ電話をくれてありがとうという反応でした。や

はり、津波は来ていなくとも被害は甚大で、こまめに声かけする必要を感じました。

○物資は避難所にあった！でも必要な人には全く渡っていない・・・

「一ヶ月着替えしていません」と訴えられた人のいる真庭の避難所ですが、実は、いっぱい物資がそこに山積みになっていることがわかりました。今日現地で大田さんが「これをみんなに取ってもらえばいいではないか」と避難所の代表に話すと、「みんな勝手にほしいものだけ取るので取らせられない」とのこと。こうした問題の解決は、別に考える必要がありますが、行政の手がまったく入っていないのが問題だと感じました。

◆福島民医連と今後の支援のあり方を協議◆

4/17～18、長瀬事務局長・大河原次長・林次長が現地に入り、地元の方との懇談や避難所訪問を行い、福島への今後の支援について協議しました。県連対策本部を確立して県全体を視野に入れた活動を行っていきます。

<原発事故対応>

* 川俣町・山木屋地区、飯舘村は5月11日までに避難指示が出されています。住民の健康不安が強く、「政治家や学者の話ではなく、医師の話が聞きたい！」という声が上がっているそうです。議員を通じて住民学習相談会を要請されており、4/23(土)、齋藤紀医師と松本福島県連会長が出席して学習相談会を実施することになりました。

* 川俣町に近い「いいの診療所」、また郡山市も放射能濃度が高く、生協組合員・住民の不安が募ってきます。医療生協組合員も多いので、組合員・住民対象に学習会を検討中です。

* このような地域の状況を受けて、今月末、緊急被曝対策本部会議を福島で開催する方向で検討しています

<小名浜支援>

水がやっと復旧し、今後は、組合員訪問、地域訪問を今後本格的に行います。また、1小学校区の避難所を行政から任されたこともあり、看護師支援を引き続き行っていきます。

<南相馬への精神科派遣>

福島県立医大の精神科教授から、5月連休以降の診療支援を要請されています。市立相馬病院の1部屋を使って診療、および巡回診療を行う方向で、具体化されつつあります。

<避難所対応>

郡山の避難所「ビッグパレット」(コンベンションホール)の環境は非常に劣悪です(これまで見た、どの避難所よりひどい！と某次長)。約1600人が避難されており、ノロウイルスなどの感染症が発生しています。避難されている方々、とりわけ高齢者の健康悪化が心配されます。急ぎ、現地事業所から視察に入って実態を把握し、行政への申し入れを行い、改善していく必要があります。

原発問題を抱えており、情勢の変化に応じて住民の不安や複雑な気持ちに寄り添いながらの支援となります。長期的な支援が必要です。今後、支援内容が具体的に次第、発信していきます。

(東日本大震災全日本民医連支援ニュース No.38 より)

支援募金の集計：

646万円に到達(4/19現在)